様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　21 年　5 月　14 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：２００５～２００８
課題番号：１７３２０１１５
研究課題名（和文）　都市・国家・帝国―東アジアの視点から見た古代地中海世界―

研究課題名（英文）　City・State・Empire－The Ancient Mediterranean World from the East Asian Viewpoints

研究代表者
氏　名（ローマ字）：田村　孝（ TAMURA　Takashi）
所属機関・部局・職：千葉大学・教育学部・教授
研　究　者　番　号：８０１７９９０２

研究成果の概要：古代地中海世界における共同体の形態は、部族による村落共同体連合やアテネ型民主政の都市国家、スパルタ型都市国家、マケドニア帝国、プトレマイオス朝などに代表される広い国土を持つ領域国家、さらにはその後の歴史上に例を見ない広大な領土を有したローマ帝国などまことに多様であった。こうした多様性を念頭におきつつ、社会・宗教・経済・政治などの諸側面において、これらがどのように生成・展開していったのかを、研究代表者および連携研究者が個別に研究を進め、さらに東京で国際シンポジウムをもって日本・中国・韓国の学者たちと論じあい、研究成果を発表した（The Association for the Study of the Ancient World （ ed. ） , *Proceedings of Japan–Korea － China Symposium 2007*, Chiba Univ.(T.TAMURA)、2008 参照)。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００５年度	4,100,000	0	4,100,000
２００６年度	3,000,000	0	3,000,000
２００７年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
２００８年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
総　計	13,300,000	1,860,000	15,160,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・西洋史
キーワード：西洋古代史、古代ギリシア史、古代ローマ史

１．研究開始当初の背景

1985 年以来、「古代世界研究会」（当時は「古代解放運動史研究会」）は、西洋古代史、特に古代ギリシア・ローマ史の分野において、韓国の研究者と研究交流を続けてきた。すなわち 3 年に一度、「日韓西洋古代史国際シンポジウム」と題して共通論題を決め、日韓 6～7 名ずつの報告者を立てて日本と韓国で交互に 3～4 日間のシンポジウムを開催し、研究発表と討論とを重ねて来たのである。こうした研究交流を経てお互いの研究の深化はもちろん、相互の人間的交流も深まり、韓国の学者が日本に古代史の研究をするために在外研究の場を求めるまでになった。この国際交流も、2004 年度までに 7 回を数えるにいたった。2004 年 4 月に本村凌二東京大学教授が欧米の西洋古代史学者を招いて大シンポジウムを開催した時に中国から 2 名の研究者を招待したことがきっかけとなって、古代世界研究会の開催してきた日韓シンポジウム

に新たに中国の学者を招へいし、いっそうの国際交流を目指すことになったのである。

２．研究の目的

「支配と従属をめぐる諸問題」は時代を問わず、また国家間であることとを問わずきわめて重要な課題である。本研究では、古代地中海世界における都市ならびに国家の諸制度、およびそれらの発展形態を、東アジアの視点を重視しながら明らかにすることを目的とする。具体的には、古代ギリシア世界における都市国家の姿や、都市以前のエトノス共同体の実態を、また古代ローマ世界における都市国家から帝国の形成を経て世界帝国段階にいたるまでのローマの国制の変化や、ローマの支配下に置かれた諸民族の反応・動向を明らかにすることを目的とするものである。

３．研究の方法

研究の目的において述べた分野における研究成果を、個々の研究者が年に一度９月にサマーセミナーを開いて発表をした。さらに、近年、西洋古代史研究が盛んになりつつある中国や韓国の研究者とともに一同に会して報告・検討する研究会（西洋古代史国際シンポジウム）を2007年９月にもった。

４．研究成果

毎年の日本人研究者の研究成果は、以下に述べるように、個人個人の所属する大学の研究紀要や学会誌に発表されている。また、2007年９月に東京で行われた「日韓中西洋古代史国際シンポジウム」の報告集は、“*The Proceedings of Japan-Korea-China Symposium 2007, —— City, State and Empire : The Ancient Mediterranean World from East Asian Viewpoints* ——”と題して刊行された。

この *Proceedings* の入手を希望される方は、千葉大学教育学部社会科教育（歴史）研究室までお問い合わせください。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計25件）

①毛利　晶「ローマによるカエレ併合とcivitas sine suffragio（投票権なき市民権）の起源」、『史学雑誌』第118巻第４号(2009年４月）39－63頁。

②高畠純夫「アンティフォンという人物（後編４）」、『東洋大学文学部紀要　史学科篇』第34号　2009年３月、187－226頁。

③森谷公俊訳「ディオドロス・シクロス『歴史叢書』第17巻「アレクサンドロス大王の歴史」訳および註（その１）」、『帝京史学』第24号、2009年２月、149-245頁。

④テオドシウス法典研究会（代表・後藤篤子、樋脇博敏ほか）共訳「テオドシウス法典（Codex Theodosianus）（一八）」、『法政史学』第70号(2008年９月)、72－88頁。

⑤篠崎三男「前５世紀後半のアテナイと黒海」、『東海大学紀要　文学部』第88輯　2008年３月31日、47－69頁。

⑥篠崎三男「アテナイと初期ボスポロス王国」、『東海史学』第42号　2008年３月31日、19－39頁。

⑦前野弘志「公的碑文？　私的碑文？　―クライアントの視点から見たアッティカの決議碑文　―」『地中海研究所紀要』第６号2008年、3－15頁。

⑧HASAGAWA, Takeo, “From Hellenes to Greeks ---- a type of Romanization ?”, *KODAI* VOL.13/14　2007, 135-143.

⑨MOROO, Akiko, “The Parthenon Inventories and Literate Aspects of the Athenian Society in the Fifth Century BCE”, *KODAI* 13/14　2007, 61-72.

⑩MAENO, Hiroshi, “Inscription Link”, *KODAI* vol.13/14　2007, 73-83.

⑪テオドシウス法典研究会（代表・後藤篤子、樋脇博敏ほか）共訳「テオドシウス法典（Codex Theodosianus）（一七）」、『法政史学』第68号（2007年９月）、78－97頁。

⑫岡田泰介「ヘレニズム期クレタにおける大規模牧畜の発達――クレタ東部ヒエラピュトゥナを中心に――」、『西洋史研究』新輯第36号　2007年、1－20頁。

⑬MAENO, Hiroshi, “Setting up Stelae and Democracy:Community of Crowns”, *The Journal of Classical Studies*, vol.20 (The Korean Association for the Western Ancient History and Culture, Seoul), 2007.6.,1-36.

⑭宮嵜麻子「2006年の歴史学界――回顧と展望――」、『史学雑誌』第116編第５号2007年。

⑮岡田泰介「古代ギリシア海辺民研究序説」、『高千穂論叢』第42－1号　2007年5月、105－122頁。

⑯TAKABATAKE, Sumio, "Co-living(共生 *kyousei*) with *barbaroi* : from archaic to classical Greece" 『地中海研究所紀要』第5号　2007年3月、101－114頁。

⑰毛利　晶「古代ローマの municeps ―古代の学者が伝える定義の解釈を中心に―」、『史学雑誌』第116編第2号（2007年2月）38－65頁。

⑱テオドシウス法典研究会（代表・後藤篤子、樋脇博敏ほか）共訳「テオドシウス法典（Codex Theodosianus）（一六）」、『法政史学』第66号（2006年9月）、34－54頁。

⑲師尾晶子「碑文を見る人・碑文を読む人―古代ギリシアの公的碑文の開放性と閉鎖性」、『アジア遊学――碑石は語る』第91号、2006年9月、158－167頁。

⑳高畠純夫「ソフィスト・アンティフォン新断片集」、『東洋大学文学部紀要　史学科篇』第31号　2006年3月、152－249頁。

㉑岡田泰介「古典古代史料研究（4）碑文」、『高千穂論叢』　第40－5号　2006年3月、117-146頁。

㉒岡田泰介「古典古代史料研究（3）パピルス文書（papyri）」、『高千穂論叢』　第40－2号　2005年11月、109－126頁。

㉓岡田泰介「古典古代史料研究（2）木簡・木板文書（wooden tablet）」、『高千穂論叢』第40－1号　2005年8月、61－79頁。

㉔師尾晶子「ミレトス決議（*IG* I³ 21）―125年の学説史」、『千葉商科大学紀要』43－1号　2005年6月、13－66頁。

㉕岡田泰介「古典古代史料研究（1）古銭」、『高千穂論叢』第39－3号　2005年3月、73－88頁。

〔学会発表〕（計　3件）
①宮崎麻子「ローマ共和政の政治における市民――食糧供給をめぐって――」、大阪大学西洋史学会大会　第13回ワークショップ西洋史、大阪大学、2008年6月。

②師尾晶子「ポリス世界の連続性と展開―エヴェルジェティズムの側面から」、日本西洋史学会第58回大会、島根大学、2008年5月11日。

③宮嵜麻子「ローマ共和政中期の秘密投票」、広島史学研究会、広島大学、2006年8月

〔図書〕（計　8件）
①長谷川岳男「メガロポリスの成立―ポリス再考序論」（豊田浩志、斎藤貴弘編『神は細部にこそ宿り給う：上智大学西洋古代史の20年』所収）、南窓社、2008年10月、43－64頁。

②毛利　晶（単独訳）、リウィウス著『ローマ建国以来の歴史3　イタリア半島の征服(1)』、京都大学学術出版会、2008年6月、288頁。

③岡田泰介（単著）『東地中海世界のなかの古代ギリシア』、山川出版社、2008年4月，89頁。

④前野弘志（単著）『アッティカの碑文文化―政治・宗教・国家―』、広島大学出版会、2007年3月、600頁。

⑤森谷公俊（単著）『アレクサンドロスの征服と神話』（興亡の世界史01巻）、講談社、2007年、382頁。

⑥長谷川岳男「ヘレニズム時代の諸相」（服部良久編著『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』所収）、ミネルヴァ書房、2006年、47－62頁。

⑦樋脇博敏（共著）『ガイドブック　ジェンダーから見る歴史』、寒灯舎、2006年、277頁。

⑧樋脇博敏（単著）『古代ローマ生活誌』、ＮＨＫ出版、2005年、199頁。

６．研究組織
(1)研究代表者
田村　孝（TAMURA TAKASHI）
千葉大学・教育学部・教授
研究者番号：８０１７９９０２

(2)研究分担者

(3)連携研究者
後藤　篤子（GOTO ATSUKO）
法政大学・文学部・教授
研究者番号：２０１９５９２８

師尾　晶子(MOROO AKIKO)
千葉商科大学・商経学部・教授
研究者番号：１０２９６３２９

前野　弘志(MAENO HIROSHI)
広島大学・大学院文学研究科・助教
研究者番号：９０２５３０３８

高畠　純夫(TAKABATAKE SUMIO)
東洋大学・文学部・教授
研究者番号：７０２２１３６４

篠崎　三男(SHINOZAKI MITSUO)
東海大学・文学部・教授
研究者番号：２０１３００６５

森谷　公俊(MORITANI KIMITOSHI)
帝京大学・文学部・准教授
研究者番号：６０１８３６６２

毛利　晶(MOORI AKIRA)
神戸大学・文学部・教授
研究者番号：６０１７４３３０

宮嵜　麻子(MIYAZAKI ASAKO)
淑徳大学・国際コミュニケーション学部・准教授
研究者番号：２０２５３３７０

長谷川　岳男(HASEGAWA TAKEO)
鎌倉女子大学・児童学部・准教授
研究者番号：２０３０８３３１

岡田　泰介(OKADA TAISUKE)
高千穂大学・教養部・准教授
研究者番号：５０３９６２３０

樋脇　博敏(HIWAKI HIROTOSHI)
東京女子大学・文理学部・教授
研究者番号：７０２５１３７９

桑山　由文(KUWAYAMA TADAFUMI)
京都女子大学・文学部・准教授
研究者番号：６０３４３２６６

以上